

# 高知くらしの護身術

300

## クリーニング

### 出す前にシミ確認を

(2013年10月8日)

衣替えの季節になるとクリーニングについての相談があります。センターに寄せられるクリーニングに関する相談は年間20件ほどで、内容は「預けた時には見当たらなかったシミが受取りに行くと付いていた。店はドライ処理によりシミが浮き出たと言うが本当か」「一年以上前にスーツをクリーニングに出し、ビニール袋に入れたまま保管していたが、着ようとしたら変色していた」などです。

クリーニングトラブルが起こる背景には、以下のようなクリーニング特有の事情があります。日常的に利用する身近なサービスであるにもかかわらず、どのような処理が行われているか多くの消費者が知らないこと▽製品を作ったメーカーとは関係のないクリーニング業者が処理を行っていること▽取り扱う衣類の素材やデザインが多種多様になっており、高い技術力を要するにもかかわらず安い料金で処理していること。

事例のように、処理によりシミが浮き出る可能性があることや、運搬用のビニールカバーをかけたまま長期間保管すると変色する可能性があることを知っていれば、トラブルを防ぐことができます。

クリーニングに出すときは、シミがある箇所などを確認し、どのようなシミなのかも伝えましょう。礼服など特別な衣類を預ける場合も最初に申し出ましょう。預り証や領収書の保管も大切です。

事故賠償基準では、仕上がり品を受取った日から6カ月、クリーニング業者が洗濯物を預かった日から1年が補償対象です。早めに受取って仕上がりを確認しましょう。

また、「受取りに行ったら店が廃業していた」という相談などもあります。トラブルに遭った場合は早めにご相談下さい。